

めだかの学校だより

平成9年5月1日

第16号

学舎：いなさ自然休養村
くつみくさ

引佐郡引佐町奥山
1737-286
TEL053-543-0321

校長訓話 第十六回校長／照井泰子

人に活かされ、人に生きる。

「そっーとのぞいてみてごらん」と言われて、ちよつとのぞいてみたら、なんだかみんな楽しそう。いつのまにか、わたしもスーイスーイ、めだかの生徒になりきって一生懸命泳いでた。



そんなわたしに、突然の校長先生ピンチヒッター指名。「校長先生なんて！」と、名誉ある大役にとまどいながらも、与えられたこの機会に「人は人に活かされ、生きる」ことを改めて考えてみることにします。

めだかの学校には、実に様々な出会いがあります。私が生きるために必要な「活かされる」人にめぐりあいます。そして泳ぎ出していった先に「生かされる」出来事や人との出会いがあり、また私は生き続けることになりました。

4月のある日、私は、奥三河の山中、廃校になった小学校の校庭にいました。子供の頃みた、木下恵介のドラマを思い出させるような光景。空は青く、回りの山々の緑、山吹の黄色に彩られた、小さな木造校舎がある校庭は、久しぶりのにぎわいを取り戻したようでした。

若者達が打ち鳴らす太鼓の音が出ると、山々に鳴り響き、こだまと繊細ともいえる横笛の旋律とが調和してこちよいい協和音となります。飛び散る汗、ハチを握る腕

の筋肉の動き、若いエネルギー。激しく、優しく、重厚に、軽妙にと演じられ、人々の笑顔や笑い声があふれ、校庭にいるすべての人の心が一体になっていきます。この日は、8年前より山の廃校に移り住んで活動している和楽器のプロ集団「志多ら（しだら）」が地元のお年寄りを招いての交流演奏会をするというので、友人と共に訪れたのでした。

「志多ら」男女11名の生活は朝6時から時間割で決められ、午前中は体力作りのランニングやそれぞれ決められた仕事をし、午後は5時間近くも練習をするという大変厳しいものといえます。好きだから、夢や目標があるから、厳しさ苦しさ乗り越えて行けるのでしよう。

彼らは、奥三河の伝統芸能「花祭り」を題材とした「志多ら舞」を演じ、この地に根づいた活動をする中で「大地や自然に感謝する心、人と人とが励まし合い、助け合って行くことの大切さを学んだ」といいます。

若い彼らの回りには、彼らを応援する人達がたくさんいます。彼らは、その人達に「生かされ」、その人達もまた、彼らに「活かされ、生きている」のではないのでしょうか。私もこの日の彼らとの出会いで「活かされる」予感がしたのです。

サインをしてもらった写真集を手に学校の坂道を下る時、すがすがしい春の風が感動にほてった頬をかすめていきました。

◇邦楽集団「志多ら」については、めだか244の清水良文さんにお問い合わせください。

湯布院研究ツアーの旅

■湯布院研究ツアーの報告——松本芳廣

メダカの学校の生徒とその仲間達21名で、3月20日から3泊4日の湯布院ツアーに行つて来ました。幹事を勤めてくれた、中川さん、鈴木さん、深谷さんの三方に頼り放しで、詳しい日程もわからないまま名古屋空港から飛行機に乗りました。しかし、メダカの生徒で、静岡県から湯布院総合観光事務所事務局長に出向している溝口久氏の計らいで、大変充実した旅をすることができました。

あの溝口薫平氏の「玉の湯」に1泊し、ご本人のお話を聞いたり、中谷健太郎氏の「亀の井別荘」を訪ねられました。ご本人のお話を聞くことができました。お二人は、湯布院の町づくりの中心人物で、短いお話の中にも、これまで、いま、そしてこれからの町づくりとその背景や考え方を伺うことができました。このほか、湯布院で「空想の森美術館」を開いている高見氏とそこのスタッフの藤枝出身の元氣な女性、同じく湯布院で農家民宿「瀬戸谷農園」でグリーンツーリズムを進めている溝口邦彦氏のお話を聞いたり懇談しました。

湯布院の他に、「桃栗を植えてハワイに行こう」で知られた大分県大山町では、農協による地域づくり、木造ドームで有名な熊本県小国町では、「木魂館」という研修施設とそこのスタッフが中心となって様々な交流を核とした地域づくりを研修しました。また、炭酸含有率が日本一の温泉があり、これを素材にドイツとの国際交流を進めながら地域づくりに励んでいる大分県直入町に案内してもらい、ここで、温泉旅館の主人でありながら役場の職員として、地域づくりにげんでいる首藤勝次氏のお話を聞きました。首藤氏のお話は大変短いものでしたが、地域づ

くりへの意気込みや、その哲学に参加者は皆大変感銘を受けました。

物見遊山の気分が出掛けたツアーでしたが、地域の歴史や文化、土地柄を見据え、熱き思いで仕事や地域づくりに取り組んでおられる方々と交流ができた。人に会い、その土地に学ぶ人「人見学山」の旅でした。また、今回の参加者同士も、3日間も同じ温泉（私は3日間で8回、うち川の中の露天混浴1回）に入り、4日も同じ釜の飯（豪華料理でした）を食べ、夜遅くまで語り合ったりしたので、大変な交流の機会となり、この面でも得るものが大変大きなツアーでした。

帰ってから、いろいろ思い出したり、中谷健太郎氏などの言われていたことを考えてみると、とても3泊4日の旅ではなく、1週間も10日も経っていたのではないかと思う今日この頃です。幹事さんや案内してくれた溝口氏をはじめ、お世話になった方々に改めてお礼申し上げます。

■人垂らしの旅

伊藤茂男

女垂らしはあまり聞きよい言葉ではないが、今回の旅はひと、ひと、ひとをお訪ねした暖かみのあるつつしりと人の重さを感じる素敵な旅であった。この言葉で今回の旅のレポートを終えたいがあまりにも短かすぎるので、蛇足になるかもしれないが、若干その足跡をたどってみたい。ネオン・酒・おんな……昭和50年代の温泉観光の代名詞を見事にくつがえし、地域の人達と共に芸術文化の漂う温泉づくりを目指し、若い女性達が来たくなるような観光地づくりを確立し、いまや日本の湯布院としてその地位を不動のものとした夢づくりの仕掛人、玉の湯社長溝口薫平氏、亀の井別荘社長中谷健太郎氏、そしてこのリーダーを支える「空想の森美術館」の高見乾司

館長、更に農業観光の実践者溝口邦彦氏などのお話を拝聴、たった1万3千人の町に年間300万人もの観光客が訪れる。そしてその6割が若い女性と伺い驚くばかり。また、この町内には美術館が33カ所もあるとのこと。さすがに湯布院は、哲学とロマンをかね備えた魅力のある観光地である。

後ろ髪をひかれる想いで湯布院を後にして、次は「梅・栗を植えてハワイへ行こう」で昭和30年代に全国的に有名になった大山町を訪問、ヤル気農協の真髓にふれる想いがした。農協の玄関に掲げられた「働き・学び・愛し合う」の看板が印象的であった。

一行20人は、大分県から熊本県へ、小国町の「木魂館」を訪問する。斬新な建築物は、阿蘇の大自然によく似合っている。全国的に有名な館長には残念ながらお会いできなかったが、スタッフの人達の信念と真剣な取り組みに圧倒されそうであった。この地域は、世界的に有名な医学者、北里柴三郎博士の出身地である。

研究ツアー最後の目的地は、大分県直入町、温泉旅館、上屋のご主人、実は役場観光係長の首藤勝次さん。人口3000人足らずの過疎温泉町とドイツとの交流を進め、見事に町の活性化がはかられたドラマチックなお話に感動し、遅い夕食となつてしまつた。3泊4日の旅も最後の1日となつた一行は、お名残り昼食会を白杵市の日本一うまい「うすきふぐ」としやれこんだ。

「もうふぐなんて見たくもない」というほど大満足、心も腹も頭も溢れんばかりの収穫を詰め込んで元氣いっぱい機中の人となつた。そうそう忘れていました。九州へ残した元氣なめだが一尾溝口久さん、今回の旅では本当にお世話になりました。生徒の皆さん、久さんが九州に居る間には是非訪れてみてはいかがですか。

熊本県鹿本町から「めだかの学校」視察

4月22日、鹿本町「かもと風車」の会の会長内田導さん、宮崎雄さん、川野功雄さん、市原幸夫さんがこられました。11時に浜松駅に榊原幸雄が迎えに行き、車の中や学舎で、めだかの学校のことを説明しました。昼食は、リンデンバウムでとり、加茂光廣生徒が合流して、歓談しました。その後、引佐町竜潭寺を見学し、引佐日赤の伊藤茂男生徒と合流し、5時のこだまにて送って参りました。

今回の視察は、前記4人の方が中心となつて、年何回か講座を開講しているが、「もつと広げて、大学なるものを開講したい。運営について、行政を頼りにするのではなく、自分たちのみで、運営していきたい。どこか手本とするところがないか」と熊本県へ問い合わせしたところ、「めだかの学校がいい」と紹介され、視察と相なつた次第です。

「かもと風車」の会では、「鹿本町には何も無い、何か作らなければ」と仲間と、石の風車を提言し、それが実つて、いまでは鹿本町の名物になつているとのこととです。6tもの石の風車がベアリングの力を借りながらも、風速4mぐらいの風で回るのだから凄いですね。「めだかの開校日でもないのに、視察にもならなかつたかも知れませんが、よう来てくれました。是非熊本にもお出掛けください。」とのこと。今度特別講師で、どなたか行くかもしれませぬ。

めだかの動き——泳ぎ回るめだかたち

●学舎である「いなさ自然休養村つみくさ」が、4月3日に5周年を迎えました。5周年を記念して、いくつかのイベントを企画しました。4月1日から10日まで、佐宗光子生徒のレザークラフト展、4月12日から18日

まで鈴木真弓生徒のマクラメ展、4月17日から21日まで名和紅麿、理代子生徒の陶芸と童画展、4月5日には、篠原準八生徒の摘み草クッキング、4月12日には、坂柳博明享子生徒のジャズコンサートとめだかの生徒の皆さんの協力で祝うことができました。

●4月4日から6日までの、大須賀町三熊神社の大祭には、めだかの生徒が押しかけて、大須賀町のめだかの生徒とワッショイワッショイと祭り気分盛り上がりしました。

●春野町の「すみれ祭り」には、尾上美智子生徒の応援に、加茂光廣生徒が、「春野大天狗まつり」には、名和紅麿生徒が、陶芸市をもつて参加しました。

●上嶋裕志、鈴木知賀男、久米久乃利生徒が加入している細江町の遠州夢倶楽部と岐阜県福岡町の早川裕康生徒の夢倶楽部がお酒が取もつ縁で、1泊2日の交流がありました。実り多い交流でした。

●めだかの親戚みいたいな長野県大鹿村の伊藤和美さんを3月8日関京子さんの案内でめだかの生徒を中心に11人で訪問、楽しい一夜の交流を行なつた。彼女は、自宅を開放し農村体験館「たかやす」を経営、彼女の人柄と大鹿村の大自然に魅せられて全国各地から多くのファンが訪れている。「これが本当のグリーンツーリズムよ。」と和美さんの弁。多くの人達に知られたい様なお勧めの宿である。(電話:0265392486)いな体験の、とりこになりますヨ……(茂男記)

●3月9日愛知県東栄町の交流促進センター「千代姫荘」を11名で視察。めだかの仲間、森下さんの案内で施設を見学。運営は森下さん達婦人グループに任せられているとのこと。この周辺は鮎釣りの本場でありその折には是非この施設をご利用していただきたいと思う。ちよとと自慢したくなる「手造りの知恵」

が彼女達からのメッセージ。「この夏はノン、わしらんとこへおいでんよ。」(電話:0536760264)(茂男記)

●猿や猪の出るようないなかの商店へデパートの社員が視察に訪れるというマンボウ峠の前嶋商店。この店の看板娘、前嶋泰代ちゃんがこのほどめでたく結婚の運びとなった。お相手は学校の先生とか、めだかの学校開校以来初めての出来事。生徒みんなで祝福してあげたい。「おめでとよう。やすよちゃん」(茂男記)

トピックス

地域づくり全国協議会発行(4月)の「地域をつくる人びと」に、めだかの生徒が掲載されている。岐阜県福岡町の早川裕康、大須賀町遠州横須賀倶楽部の竹内誠人、言い出しつべの榊原幸雄の3名です。12月発行予定が4月になってしまったのは、竹内と榊原2人が原因大とするところですが、9月20日締切が、11月31日に原稿を送つたのですから……。

つみくさが3月17日朝、NHKのTV、Rで全国へ生中継され、全国の地域づくりの仲間から、電話、FAX、手紙を頂きました。

2月14日、15日に焼津市を中心に開催された、「地域づくり全国研修交流大会」で「めだか」が大いに泳ぎ回つた結果です。

8月には、榊原が鹿児島県から、分科会の講師に招かれてしまいました。

天然記念物浜川つじの見頃は5月25日頃です。新緑の浜川へどうぞ……

●浜川つじまつり5月24日～6月8日
 浜川のめだかたち(伊藤八右・山本光男・松本由幸・野末かつ子・伊藤茂男)
 お待ちしております。

新入生ひと言

農業／渥美末夫

心理学「コミュニケーションと人づくり」ちょっと難しかったけど、何となくわかったようで、もう一度聞いてみたいな。林学「木は私のパートナー」木登り名人。たいへん上品で、おしとやかに見える女性の方のお話で、「本当は木に登っているのですよ。」と聞きおどろきました。自然科学「責任は庸平がとるーおらが村からのメッセージ」。過疎になつて行く経過をおもしろく楽しく話されましたが、自分の所よりもっともつと厳しいなア。みなさん生徒さんで先生になり、自分たちで準備して食事をして、片づける。たいへんすばらしいめだかの学校だなあと思いました。次回はお給食当番をすることになりました。今から楽しみにしています。

金子芳美

豊橋からの新入生の藤原俊子と金子芳美です。「めだかの兄妹は川の中」ということで、松本芳廣の妹とその友人です。

今年の正月に「小さな町だからこそ仲良く正しく心豊かに前向きに生きていきたいのに、なかなかわかつてもらえなくて」と兄にグチをこぼしたところ、めだかの学校を紹介してくれました。

好奇心と近い場所だったので友人とさっそく出かけました。肌寒い季節にもかかわらず、いこちの良い暖かさに感激。ビリーの刺激もうけて、おなかも心も満腹状態で帰ってきました。いろいろな地域に起こる事件でヨレヨレの傷心状態であった私達にとって皆様の暖かな目は即効性の特効薬でありました。皆様から頂くばかりの私達かもしれません。まだまだ成長途中であります。栄養補給をお願いします。これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

- 水野忠義 掛川市収入役から掛川市商工会専務理事に。
- 柴田宏佑 引佐町金指小学校長から三ヶ日西小学校長に。
- 加茂光廣 浜松フラワーパーク職員から人と植物を結ぶ「デザイナー」に。
- 匂坂怜子 ミヤコダバラ園からフリーバラコーディネーターに。

めだかの学校伝言板

第16回めだかの学校を開校するので出席なさい。

開校日／平成9年6月6日6:20PMより

校長／照井泰子 エヌビー静岡
 教頭／前島克己 自動車学校長
 用務員／夏目厚司 なつめ・お酒博士
 給食係／水野忠義・牧野久子・伊藤茂男
 渥美末夫・野末かつ子・高森久枝・他

1時限目＝岩井一代先生
 自然科学「食と環境」
 2時限目＝榊原淑友先生
 社会「農協は今…」
 3時限目＝匂坂怜子先生
 園芸「バラと私」

※給食担当の生徒は、近日中にメニュー打ち合わせ会を予定しています。

<受付> 武井紀夫・足立陽洋
 (協力／松本芳廣)

編集後記

山は新緑です。開校日頃には、雨に似あう花たちが、しっとりとしかもあでやかな姿を見せてくれるでしょう。紫陽花は森町の極楽寺、花菖蒲は掛川の加茂花菖蒲園や森町の小国神社等が有名ですが、学舎近くの方広寺ではどちらも見事に咲きます。

「祭りだより」今回はお休みですが、次号は秋、情報満載しますのでご協力よろしくお願ひします。

めだかの学校事務局

〒431-23
 静岡県引佐郡引佐町1737-286
 いなさ自然休養村〈つみくさ〉
 TEL・FAX 053-543-0321

事務局より

五期は9年9月1日から
 10年8月31日までです。

来期入学希望の方は、6月6日の登校日に入校手続きをします。在校生も手続きが必要です。出席できない方は、同封の入校申込書に記入し、入校金1000円を添えて申し込んでください。手続きのない方は、自動退学名簿からはずれることとなりますので、お気をつけください。入校金納金をもって「めだかの学校生」となります。

各地の便りの掲載について

各地域でいろいろの催事があると思います。次回発行日は、8月1日ですので、7月20日までに、事務局へFAX、又は、封書にてご送付ください。